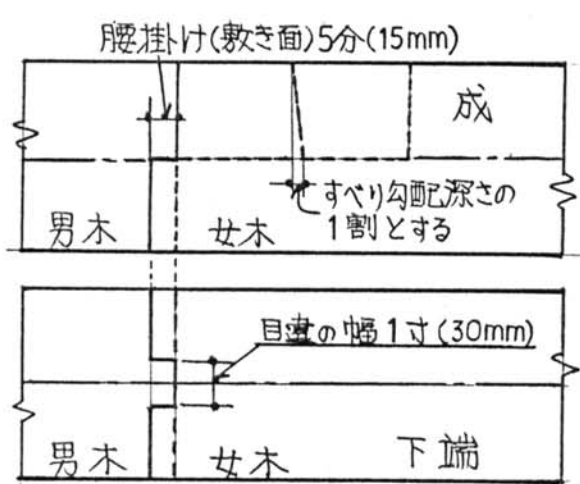
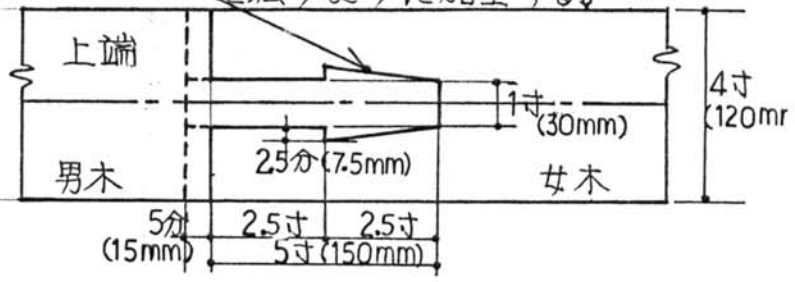


★腰掛けかま継ぎ ~ 腰掛け(敷き面ともいう)幅5分(15mm). 成は1/2.のか所につけるのを原則とする。腰掛けは、上の部を上敷き(男木). 下の部を下敷き(女木)という。これは長さを計るときに使う言葉である。かま継ぎには、加工長さ(上端面接合面~かま首先端)により、4寸(120mm)かま、5寸(150mm)かま、6寸(180mm)かま、の長さ別がある。一般構造継手では、5寸かま、6寸かま、が多く使われている。土台や母屋では、4寸かまをまれに使用される程度である。

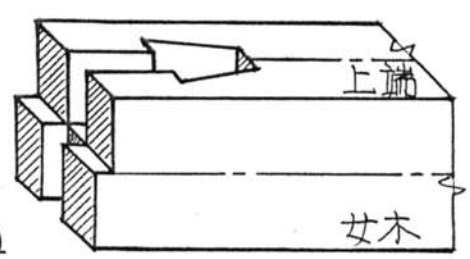
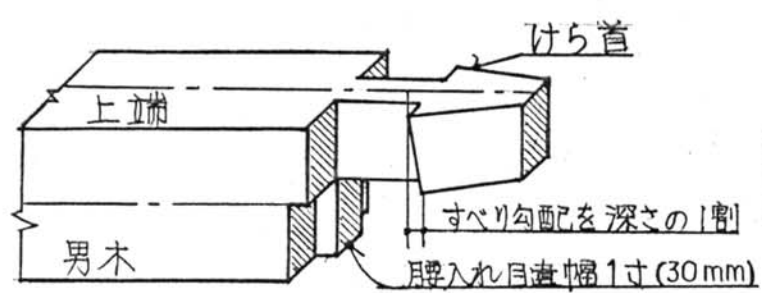
●かま継ぎ加工図 ~ 4寸角、5寸かま。



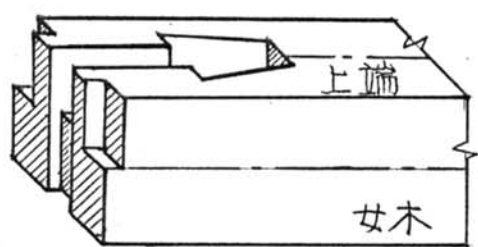
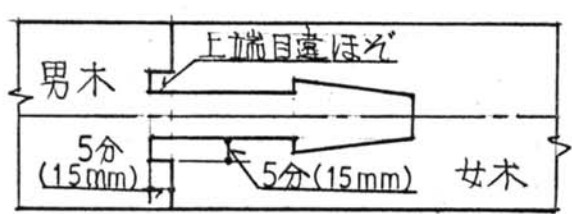
けら首~女にすべり込ませるとき、この面が堅いとうまく入らないから、男木は墨の上をひき女木は墨を払うように加工する。



材寸法4寸(120mm). 一般には材寸法幅が変わっても図示の加工寸法による。



★腰掛け、目違ほぞ付きかま継ぎ. ~ 継手口に安定性もたせる為、継手の男木女木のひねりねじれ等の曲りを防止するため、下端へ腰掛け目違ほぞを入れる。また上端にも目違ほぞ幅5分(15mm)を入れる。上目違ほぞは女木につけ、下目違ほぞは男木につける。



★矩(さしがね)による墨付け ~ 矩(さしがね)の項で記述したように、普通幅5分(15mm)を基本とした寸法(数字)や、いろいろのさしがねの使い方がある。矩(さしがね)がすぐれた規矩術のたまものである。

